

【1】高校生の光さんと葵さんは、「日本の議会政治の始まり」について探究学習を進めている。以下の【資料1】～【資料3】は、その過程で集めたものである。これらの資料を読んで、後の問い（問1～問6）に答えよ。

【資料1】ビゴーによる伊藤博文が新年の挨拶をする風刺画（1888年）と意訳



「岩倉使節団で会見後、私、伊藤博文は、  
【 X 】様の考える国づくりに共鳴し、日本においてもそのような国を実現したいと考え、崇拜するようになりました。あなた様の御利益のおかげで、病気で死ぬことも暗殺もされず、無事に正月を迎えました。御礼を兼ね鏡餅を供え、元日にお祈り致します。現在、私が率いる政府は「大同団結運動」が活発になり大変な状況です。しかし、今年も私を見捨てずお助けください、良い方向に導いてください。宜しくお願い致します。南無妙法蓮陀仏、アーメン」

【資料2】初代内閣総理大臣 伊藤博文の演説（要旨）

政府は、議会で多数を占める政党の意見に、常に従わなければならないというものではない。政府は議会に対してではなく、至高の存在である天皇に対してのみ責任を負うのである。内閣は、政党の外部に立ち、公平な立場で国を運営すべきである。このような立場を「超然主義」という。

【資料3】大正時代初期の風刺画（1913年頃）



（風刺画の説明）

左側の「国民」の看板を掲げた店は大繁盛しているが、手前の「立憲新政糖」は繁盛しておらず、巡査が無理やり客を引っ張っている様子。

問1 【資料1】の意識中の空欄【 X 】に当てはまる人物の名前を答えなさい。

問2 【資料1】に関する説明A・Bの正誤の組み合わせとして正しいものを、次の選択肢①～④の中から1つ選びなさい。

A 伊藤は鏡にうつる人物のことを尊敬しており、その人物がいる国のように日本を近代化させたいと考えている。

B 【資料1】では翌年に発布されたものが鏡にうつる人物がいる国を参考にして作成されたことを批判している。

①A：正 B：正      ②A：正 B：誤      ③A：誤 B：正      ④A：誤 B：誤

問3 【資料1】の意識中の下線部は三大事件建白運動をきっかけに活発になった。三大事件建白運動で要求された3つの内容として誤っているものを、次の選択肢①～④の中から1つ選びなさい。

①外交失策の挽回      ②地租軽減      ③言論・集会の自由      ④臥薪嘗胆

問4 【資料2】で伊藤博文が主張する「超然主義」の考え方として正しいものを、次の選択肢①～④のうちから1つ選びなさい。

- ①議会の協力なしには政治は行えないとする考え方。
- ②国民が選んだ政党が政治を行うべきだとする考え方。
- ③大臣は議会ではなく天皇に対して責任を負うとする考え方。
- ④外交問題については政党の意見を尊重すべきだとする考え方。

問5 【資料3】は、どのような政治状況を描いたものか。この風刺画が描かれた1913年頃にあった政治運動とそのスローガンとの組み合わせとして正しいものを、次の選択肢①～④のうちから1つ選びなさい。

選択肢	政治運動	スローガン
①	自由民権運動	天賦人権
②	第一次護憲運動	閥族打破・憲政擁護
③	普通選挙運動	普選断行
④	日露戦争反対運動	非戦論

問6 【資料1】～【資料3】は、明治から大正にかけての政治状況を示している。この後の日本の政治は、やがて政党が内閣を組織する「政党内閣」の時代へと移行していく。その歴史的展開についての説明として誤っているものを、次の選択肢①～④のうちから1つ選びなさい。

- ①第一次護憲運動の高まりを受け、藩閥出身の桂太郎内閣は退陣に追い込まれた。
- ②原敬は、本格的な政党内閣を組織し、「平民宰相」として国民から歓迎された。
- ③1925年には、納税額に関わらず全ての満25歳以上の男子に選挙権が与えられる普通選挙法が成立した。
- ④政党内閣の時代が確立すると、軍部が政治に介入することはなくなり、議会政治は安定した。

【2】 高校生の明さんと優さんは、「近代日本の文化 — 伝統と西洋化のはざままで」というテーマで探究学習をしている。以下の【資料1】～【資料3】は、その過程で集めたものである。これらの資料を読んで、後の問い（問1～問7）に答えなさい。

【資料1】 森鷗外の小説（1890年）の一節（要旨）

ドイツに留学したエリート官僚である主人公の豊太郎は、美しく可憐な踊り子エリスと恋に落ちる。しかし、日本の友人から、大臣の信頼を裏切り、母の期待を捨てるのかと厳しく問われる。彼は、恋人への愛と、立身出世して国に貢献するという任務との間で激しく葛藤する。「ああ、友よ。君の言葉が正しいことは分かっている。だが、僕はこのエリスをどうすればよいのだ。」

【資料2】 絵画『湖畔』（1897年）



（作品の説明）

フランスで西洋画の技法を学んだ人物の代表作。明るい外光の下で、人物や風景を写実的に描く印象派の影響が見られる。

【資料3】 明治20年代の思想に関する説明文

明治初期の急速な欧化政策に対し、その反動として日本の伝統文化を見直そうとする思潮が生まれた。人々は、西洋の模倣だけでは真の近代国家にはなれないと考え始めた。欧米の思想や技術を学びつつも、日本の精神や美意識を再評価し、それらを融合させて新しい日本の文化を創造すべきだという主張が、知識人の中で広まっていった。

問1 【資料1】 の小説の名称として正しいものを、次の選択肢①～④の中から1つ選びなさい。

- ①『浮雲』      ②『一握の砂』      ③『吾輩は猫である』      ④『舞姫』

問2 【資料1】 の小説の主人公が直面している葛藤は、近代になって生まれた新しい悩みと言える。その「新しさ」として正しいものを、次の選択肢①～④のうちから1つ選びなさい。

- ①封建的な身分制度の中で、結婚が許されないことへの悩み。  
②個人の恋愛感情と、国家や家に対する義務との間で引き裂かれる苦悩。  
③故郷を遠く離れたことによる、単純なホームシック。  
④親から決められた許嫁にどうしても愛情を持たないという問題。

問3 【資料2】 を描いた人物を答えなさい。

問4 【資料2】の絵画『湖畔』は、それ以前の日本の絵画（浮世絵など）とは異なる特徴を持っている。その特徴について説明したものとして正しいものを、次の選択肢①～④のうちから1つ選びなさい。

- ①描かれている題材は日本的だが、表現には西洋由来の写実的な技法が用いられている。
- ②日本の伝統的な絵具のみを使用し、完全に日本の古来の画法に回帰している。
- ③人物も背景もすべて想像で描かれており、非現実的な世界観を表現している。
- ④西洋の神話を題材にしており、日本の要素は一切見られない。

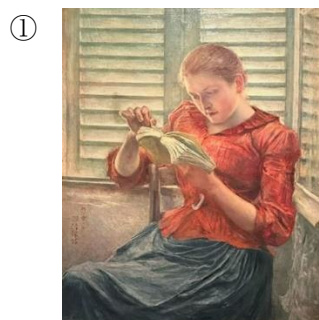
問5 【資料3】で説明されている「新しい日本の文化を創造すべきだ」という主張が生まれた背景として正しいものを、次の選択肢①～④のうちから1つ選びなさい

- ①鎖国政策を強化し、外国文化を完全に排除する必要があると考えられたから。
- ②明治政府が伝統文化の保護にのみ力を入れ、西洋文化の導入を禁じたから。
- ③文明開化期の行き過ぎた西洋化に対する反省と、自国の文化への誇りが生まれたから。
- ④アジア諸国との文化交流が活発になり、日本の独自性を見失う危機感が高まったから。

問6 【資料1】～【資料3】は、いずれも明治20年代から30年代前半にかけての文化の動向を示している。これらの資料から総合的に読み取れる、この時代の文化の特色として正しいものを、次の選択肢①～④のうちから1つ選びなさい

- ①西洋文化を一方向的に模倣するだけで、日本の独自性は完全に失われていた。
- ②あらゆる分野で、西洋文化の影響を受けながらも、日本のアイデンティティを模索する苦悩や試みが見られた。
- ③人々は西洋文化に全く関心を示さず、江戸時代以来の伝統文化だけを固守していた。
- ④文学や美術は、もっぱら富国強兵のスローガンを宣伝するための道具としてのみ発展した。

問7 このような明治時代の文化の動きを経て、大正時代になると、新たな文化の潮流が生まれる。大正時代に描かれた絵画として正しいものを、次の選択肢①～④の中から1つ選びなさい。



解答

【1】問1：ビスマルク 問2：① 問3：④ 問4：③ 問5：② 問6：④

1点×問1、問2 = 2点 2点×問3～問6 = 8点 計10点

【2】問1：④ 問2：② 問3：黒田清輝 問4：① 問5：③ 問6：② 問7：③

1点×問1、問3 = 2点 2点×問2、問4～問7 = 10点 計12点

合計22点